The 26th Annual Meeting of the Japanese Society of Lumbar Spine Disorders

第26回日本腰痛学会

プログラム・抄録集

会期 2018年10月26日(金)・27日(土)

会場 アクトシティ浜松
中ホール、コングレスセンター
〒430-7790 静岡県浜松市中区板屋町111-1

会長 松山 幸弘
浜松医科大学 整形外科

腰痛の真理追究と
明るい未来へ

会長挨拶

第26回日本腰痛学会を迎えて

「腰痛の真理追求と明るい未来へ」

会長　松山 幸弘

（浜松医科大学整形外科　教授）

今回第26回を迎え、「腰痛の真理追求と明るい未来へ」をテーマにさせて頂きました。指定演題27演題、公募演題212演題であわせて239演題の登録となりました。これも皆様のご協力の賜物と存じます。

さて腰痛の真理追求は25回まで継承してきましたが、いまだに未知の部分が多いと思います。痛みのオリジンが特定できない「非特異的腰痛」の可視化を目指してシンポジウムとして取り上げました。そして浜松リサーチファーマの髙松宏幸先生にサルをモデルにした痛みの可視化はどこまで進歩しているのかを講演していただきます。さらに難治性慢性腰仙部痛へのアプローチーとして仙腸関節障害を多く扱っている村上栄一先生、上臀皮神経障害からのアプローチとして井須豊彦先生、またキャストで対応する金子慎二郎先生で討論して頂くシンポジウムも行います。

文化講演では室伏由佳先生に、もう腰痛に悩まない！～アスリートとして腰痛症と向き合った経験から～を講演頂きます。

また、慢性腰痛治療上最も大切な集学的治療体系をスタッフの少ない中でどのように行うのか、さらにはリハビリ領域における筋肉評価客観化やエビデンスに裏付けされたリハビリの実際、そしてエコーを使用したブロック療法の実際もハンズオンを通して討論していただきます。

最後に、弁護士、医師のダブルライセンスをお持ちで、本学の法学教授である大磯義一郎先生に医療訴訟の傾向と対策についてお話しいただきます。

盛りだくさんの内容になってしまいましたが、是非浜松の地で「腰痛の真理追求と明るい未来へ」へ向けて熱い討論を繰り広げていただければと願います。